

高津区おはなしアーカイブ

●齊藤 マキ子 (さいとう まきこ) さん

昭和5年生まれ 87歳
川崎市高津区久本在住



◆子どもの頃のこと

私が育ったのは長尾です。地区分割があり、今は神木本町になっていますが、実家は今もそこにあります。

実家は農家で、私は7人兄弟の一番上、長女です。弟が実家を継ぎ、今も農業をやっています。

小学校は6年間向丘小学校（入学時は「向丘尋常高等小学校」、昭和16年に「川崎市向丘国民学校」に改名）に通いました。小学校

時代、1年生から2年生くらいまでは学校にも着物で通っていました。あと、何か式典があると袴を着ていました。農家は農家でない人と物々交換ができたんですよ。お金じゃなくて、品物をもらって、野菜などと交換するんです。

小さいときの遊びは、お手玉とかドッジボールとか。男の子達はコマ回しとかで遊んでいましたし、二ヶ領用水で泳いだりもしていました。小学校では女の子は体操の時間で薙刀（なぎなた）を習っていましたよ。

戦前は、ふつうに農家の子は真っ黒になって遊んだり、上の方から流れてくる湧き水が、庭の端のところに池になりましてね、男の子はそこでザリガニをとったりして遊んでいました。

◆女学生時代は戦争中

小学校卒業後、今の高津高校、当時は今の高津小学校の隣にありましたが、そこに入学しました。その時分はバスもありませんし、歩くと40分以上かかる距離なので自転車通って通っていました。モンペをはいて、防空頭巾をかぶって通学しました。入学したときは「高津高等女学校」でした。昭和18年には軍の兵隊さんがそこに入りましてね、翌年の昭和19年に、末長に校舎が移転したんです。（昭和19年8月高津高等女学校は川崎市末長282番地に校舎を新築し移転）私達女学生も机や椅子を持って坂道を上り、教室のものを全部手で運びました。夏の暑い季節でした。校舎があった辺りは、薬医門公園脇の山道を

ずっと上がったところでした。昔はもっと汚い道でした。

昭和20年になると、私達も学徒動員で、日本光学の一番端っこのところに日本通信という会社の分社がありましてね、そこに行くことになりました。通信関係の会社ですから、鉄心を組み立てたり、コイルを巻いたり。そんな作業をしていました。その頃には授業はほとんどなくなり、皆お国のためにと働いたんですよ。

戦争中、学徒動員で会社に行っていたときも、警報が鳴ると家に帰れということになったんです。昭和20年になると空襲も激しくなり、家に帰るのも危険なので、今の駅のところに横浜銀行がありますでしょ、あの辺りに「巴屋」というお蕎麦屋さんがありますが、そのお蕎麦屋さんの娘さんとお友達だったので、防空壕に入れさせてもらっていました。戦闘機が会社を狙っての空襲が多くなっていきましたから、常に空襲警報が鳴っていました。警報が鳴ってもすぐには家まで帰れませんから、生徒は分散して、それぞれお友達の家や防空壕に入らせてもらっていました。大変な時代でした。

戦争中は農家はお米を供出させられましたから、ごはんは麦を入れて炊いたりしました。だけどいっぱい食べられましたし、家族が大勢いても食料には困りませんでした。おやつとしてサツマイモや柿なんかも食べていましたよ。

学徒動員中に終戦となり、その後、昭和23年になると学制改革によって学校は「川崎

市立高津高等学校」になりました。新しく高等学校ができたんです。私はそのまま1年間通い、昭和24年3月に高津高等学校の一回生として卒業しました。

◆戦争中の思い出

最初は戦争も勝っていましたけど、皆「勝ってくるぞと勇ましく」って出て行くんです。けれど私の記憶に残っているのは、学生の時分、大学生が皆、列をなして戦争に行く風景。私達は慰問袋を作ってあげました。学生さん達は予科練に行き、皆死に行くんですよ。それがかわいそうで一番記憶に残っていますよ。兵隊さんに持たせるために、千人針も刺しました。兵隊さんがお腹に巻いていったんでしょうね。街頭で刺してもらう人もいましたね。本当にかわいそう…。でも、みんなが出征しましたから…。送り出すときは日の丸の旗を持って、「お国のために」っていても、かわいそうでした。一番それが悲しいことだと思いますよ。20歳ぐらいの若い方達でしたからね。昔の話をして、今の人は解らないと思いますけど、知っておいて欲しいです。

◆終戦を迎えたとき

玉音放送は聞きました。だけど、ラジオでしょ。だから言葉がはつきりしなかったんですよ。でも戦争が終わったのだからってことは解りました。家族皆集まって家の中で聞きました。戦争は終わりましたが、いつまでも戻ってこられない方もいらしたでしょ。まだ

帰って来られた方は良かったですけど、戦死なされた方はかわいそうですよね。私の叔父さんたちは皆帰ってきました。近くで亡くなった方はいませんでした。

戦争が終わって良かったと思いましたよ。だって、あんなね、空襲のような怖い思いをして、学校でも英語は敵国の言葉だと言ってね。でも、戦後は食糧難。学校の敷地でサツマイモやサトウキビを作ったり、学校から農家を手伝いに行ったりしましたよ。ただ、私達はまだ恵まれた方でした。もう少し上の方は、学校にも戻らず、卒業されましたからね。うちは農家でしたから食べ物にも困らないし、学校にも行かせてもらえたし。友達が農作業を手伝いに来て、大きなリュックで食料を持って帰ったりもしていました。

◆結婚して久本へ

高等学校を卒業して、本当はお勤めをしたかったんですけど、農家なもんですから父がどうしても勤めに出さなかったんです。一番年上で、下には弟妹が大勢いましたでしょ。とうとう一度も勤めないで嫁に行きました。

昭和29年に久本に嫁に来た時には、家で三日三晩結婚式でした。お客さんが見に来るんです。どこどこのお嫁さんが来たといって、近所の方々がやってきて、持ってきた荷物や着物とかを皆に見せるんですよ。

無我夢中で2人の子どもを育てながら働きました。お米のほかに、お野菜、お茶も栽培して炒っていました。お茶は焙炉を土間に据え付けて、下に炭を入れて手揉みして製茶し

ていたんです。

今のこの家は50年経ちますが、私がここにお嫁に来たときには、昔ながらの草葺の屋根。それにトタンをかぶせていました。藁葺きなので家の中は火気厳禁、お風呂は外にありました。今ある井戸の隣にあったんですよ。昔の家は今のようにきちっとしていないでしょ、屋根には藁を上げたりして。だから蛇が上がり来ちゃうの。古い家を壊したときにはアオダイショウの大きいのが2匹いましたよ。今もこの床下にいると思いますよ。きつとこの家を守っているんでしょうね。

お嫁に来た頃は、この辺りにもホテルが飛んでいました。

あと、昔はこの辺も講中（こうじゅう）というのがあって、お葬式や法事などがありますと、その講中に入っている人たちが集まるんです。最初は14軒くらいあったんですが、だんだん減っていきました。何かあると集まって。おそばをゆでたり、お料理をしたり、来た人にふるまったりしましたよ。

また、正月には餅つきを大きな臼で自分でやっていました。その影響か、今までお餅を買ったという経験はありません。

こちら辺りは開けるのが早かったので、周囲の方は田んぼを手放し、宅地になっていきました。今の、派出所の向こう側に最初に県営住宅ができて、住宅街になりました。

嫁ぎ先が久本で良かった。坂道はなくて、平らなところで、駅も近いでしょ。この家もまだね、樹木がいっぱいあるでしょ。庭にある梅の木は、いつ植えたのか知らないという

くらい古い木ですけど、今でも30キロくらい梅がとれます。それで梅干しを漬けたり、焼酎に漬けて梅酒を作ったりしています。

家の前にある井戸は蓋をしていたんですけど、今は地震だのなんだのと災害に対して備える時代でしょ、だから井戸屋に点検していただき、ポンプをつけてもらったんです。植木にお水をやるときはそのお水を使っていますよ。この井戸の水は途絶えたことがないんです。趣味では小唄もやっています。声を出したり、お三味線をやったり、始めてもう40年以上経ちますよ。1年に1回、三越の舞台に出ています。若い頃は本当に大変だったけど、今は息子夫婦と孫3人の6人家族で幸せな日々を過ごしています。



庭にある樹齢百年以上の梅の木

(平成29年10月17日取材)